



新吉田

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinyoshida>

横浜市立新吉田小学校

イヌの気持ち

校長 関谷 道代

学校付近を歩いていたところ、こんなことがありました。

向こうからイヌの散歩をしている方が近づいてきます。歩道が狭かったので、お互いに何も言わなくても相手が歩けるようにスペースを確保しながら歩きます。江戸しぐさの「傘かしげ」の発想です。お互いの間合いがぴったり合ったので、飼い主の方とはぶつからずに歩くことができました。

ほっとしたその直後に、私の持っていたかぼんの角(かど)が散歩中のイヌの頭に「こつん」と当たりました。確かにぶつかった感触があったので、「あ、ごめんなさい！」と思わず声をあげました。

その小さなイヌは、私の焦った様子や「ごめんなさい」の声に気付いたようで、振り返りました。しかも3回。「痛くないよ！」びっくりしたように振り返り、進行方向に歩きながら。「大丈夫だよ！」嬉しそうにジャンプしながら。「気にしないで！」こちらをじっと見て。

思い過ごしかもしれませんが、私には、3回の振り返りに、そんなメッセージを感じました。

イヌは、しつけや日々繰り返される生活や、コミュニケーションの中で積み重ねられる経験から学習して、言葉の意味を理解すると言われています。私の「ごめんなさい」という言葉の意味が分かったのかもしれませんが、そうでないかもしれません。でも、私の焦った気持ちが伝わったのではないかと思うのです。

今年の夏の「横浜市教育課程研究委員会 総則部会 研究協議会」(今後の教育の方向性を共有し充実を図るために毎年行う協議会)では、「社会情動的コンピテンシー」という言葉がキーワードでした。

内容を整理すると次の3つの領域になります。

- ① 自分に関する領域(自己認識・自分の感情・自己制御など)
- ② 他者に関する領域(他者の感情や思考の理解など)
- ③ 自分と他者や集団との関係に関する領域(人間関係、コミュニケーションなど)

「主体的・対話的で深い学びの中で、社会情動的コンピテンシーは育つであろう」という仮説のもと、今学校で行っている教育活動を「社会情動的コンピテンシー」の視点から見直し、数値化することの難しい「心の動き」も大切にしようという提案が印象的でした。

さて、38日間の夏休みが終わり、久しぶりの登校。わくわくした気持ちで学校に向かう子どももいる一方で、気持ちを奮い立たせて学校に足に向けた子どもたちもいるのです。

言葉ではもちろんのこと、言葉以外の要素からも子どもの気持ちを分かろうとすることは、まさに、「社会情動的コンピテンシー」の一つです。私たち大人は、あらゆる状況の情報から、子どもの気持ちを察する目と心を鍛えなければと改めて思いました。あらゆる角度から子どもの良さを見付け、価値付ける力をつけなければ。

飼い主や「イヌの気持ち」を察する。ぶつかってしまいほっとした「ヒトの気持ち」を察する。

そんな、お互いを察しようとするコミュニケーションを大切にしていける学校でありたいと思います。

9月もどうぞよろしくお願いいたします。